



## 明けましておめでとうございます



財) 大阪コミュニティー財団による和泉市水仙基金の助成金で惣ヶ池湿地の湿地Cに木道が完成しました。

12月3日からスペインのマドリードで開催されたCOP25（気候変動枠組条約締約国会議）で日本は世界をリードするどころか2回も“化石賞”（温暖化対策に消極的な国に与える賞）を受賞するという不名誉な結果に終わりました。

「経済面で優れたエネルギー源だ」と火力発電所の新增設を推進している日本への痛烈な批判です。

それとは対照的に、スウェーデンの16歳の少女グレタ・トゥンベリさんが国連の「気候サミット」で『私たちは絶滅の始まりにあるのに、あなた方が話すのは、お金や経

済成長ばかり。私たちを裏切る道を選ぶなら私たち若者は絶対に許さない』と演説し、エリザベス女王をはじめ世界の多くの人々に感銘を与え、世界中の若者400万人を動したことは賞賛に値します。

地球温暖化防止については、根本的には政治的に解決していくしかありません。私たちに出来ることは何かを考えると、地球規模からみれば微々たることかも知れませんが、私たちが取り組んでいる惣ヶ池湿地の保全活動は、僅かでも温度を下げる効果がある湿地を陸化から守ることと同時に湿地の生きものを守るために大切な活動だと言えます。

NPO法人 信太の森FANクラブ

事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202

電話 0725-45-7357 090-1225-9159

E-mail [tamahati@amber.plala.or.jp](mailto:tamahati@amber.plala.or.jp)

## 公園協議会の動きと活動

これまで公園協議会の活動日は午前9時から12時まで草刈など保全作業を行い、午後からは誰でも参加できるミーティングを信太の森ふるさと館で行ってきました。

そのミーティングで、最近公園協議会の活動日の参加者が少なくなっていることから、信太の森FANクラブの観察会の時間（9時～12時）を4月からの1時間ずらして10時から12時とした結果一般参加者が増えたことを伝え、公園協議会の活動についても集合時間を1時間ずらして10時からにしてはどうか提案したところ、11月活動日より午前10時～12:00。昼食をはさんで午後からは15:00までミーティングとクラフトや午前中の活動ではできない階段づくりなどを行うことにしました。

ミーティングも運営等を話し合う「全体活動ミーティング」と道づくりやクラフト・ロープワークなどを行う「自主活動ミーティング」に分けて進めていくことになりました。



孝子の森見学と里山講座

10月22日、公園協議会の里山講座（第2回）が和歌山県との県境、孝子の森で開催され、信太の森FANクラブ会員11名プラス子ども1名を含め40数名が参加しました。

市役所から南海本線孝子駅まで大型バスで行き、そこから徒歩で15分ほどのところに孝子の森はありました。

孝子の森里山クラブの代表者の挨拶の後に班に別れて孝子の森の運営方法や取組みなどの説明を受けました。

そこでの運営は、会員それぞれの得意分野を生かした役割分担が実践されていることに感銘を受けました。

その後里山クラブ会員が現地で調理した野菜スープとそこの釜で焼いたピザ、たき火で焼いた焼き芋で昼食を済ませました。

午後からはその里山（大部分が森林）を見学。大阪湾を一望できる展望台まで登って里山講座は終了しました。



第2回里山講座・孝子の森

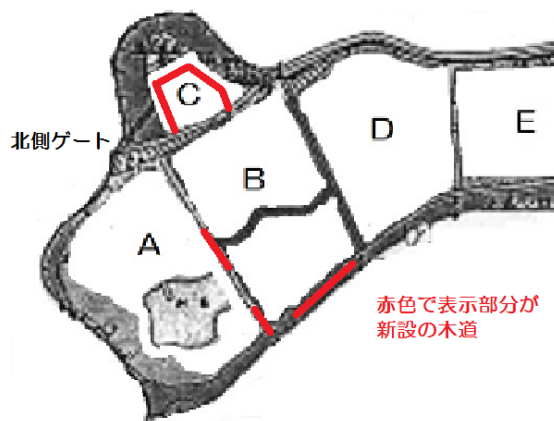
<参加者の声>

変楽しい一日を有難うございました。孝子の森の皆さんの活動に目を見張りました。何より楽しそうでまたチームワークが素晴らしいと感じました。お昼に戴いたピザ、サツマイモ、スープも大おいしく戴きました。

## 惣ヶ池湿地に木道できる

今年4月、惣ヶ池湿地に木道を作るために公益法人大阪コミュニティー財団による「和泉市水仙基金」の助成金30万円を受けることになりました。

当初100万円あれば8割方木道ができると考え、助成金を申請したところ30万円の助成となりました。



初めての試みだけに資材及び材質等種々検討した結果、杭については木質の足場材が腐食した際に足場材のみ取替えができるように合成樹脂の杭を使用することにし、長期使用に杭が沈みこまない工法を種々検討するなど保全作業とは違った苦労がありました。

湿地図の赤色で表示部分が今回設置した木道部分です。この木道作りには、資材運搬や工事に9名のみなさんの協力をいただきました。



北側畔の溝を渡す第1号木道

次年度の助成金の申請については、すでに理事会で申請することを決め、申請書を公益法人大阪コミュニティー財団に提出しています。

来年度、助成金が決定された場合は、第一号木道の畔全体の木道作りにとりかかりたいと考えています。



木道3号(左)と木道4号(右)

## 大阪自然史フェスティバル2019

11月16日、17日の両日「大阪自然史フェスティバル2019」が開催され、信太の森FANクラブも参加し、信太山丘陵の自然とFANクラブの活動を紹介しました。

ブース担当として9名の会員の方々が参

加し、FANクラブの紹介と島崎さんに準備していただいた水鳥とクマのドングリクラフトの作り方の指導をしていただきました。

1個100円のドングリクラフト作りには、親子連れが多く立ち寄り、FANクラブのブースを賑わしました。

ドングリクラフトの収益金は二日間で3,200円でした。この収益金は、今回のフェスティバル開催に当りフェスティバル運営事務局より寄付・カンパを求められていたこともあり、この収益金全額をフェスティバル事務局に寄付しました。

なお、今回のフェスティバルには、和泉市公園協議会も参加し、信太山丘陵の公園づくりへの参加を呼び掛けていました。



窓口はクラフト作りで賑わいました

## 信太山丘陵のキノコを楽しむ

50年前の信太山丘陵ではマツタケが採れたと聞いています。20年前まではアマタケが沢山採れて食べたものです。

そのアマタケが20年を経て藪化が進んだためあまり出なくなりました。見つけても管穴に虫が入っているので、筆者以外に食べる者もなく、採るのを止めてしまいました。

今シーズン、ハツタケは「油で炒め、食塩で味付けしたのを白いご飯と混ぜて食べると美味しいよ」と三輪さんに教えて貰ったのをきっかけにハツタケとアマタケを採りました。

アマタケを味噌汁に入れて食べるとなめこ

汁に似て美味しく食べました。キノコの中にある虫がいいダシになっているのかも知れません。

ハツタケは、5～10ミリくらいに角切りにし、オリーブオイルで炒めて塩少々で味付けをして、教わった通りご飯に混ぜて食べて見たところ何と美味しいことか。今シーズンはハツタケ飯を2回食べることになりました。

惣ヶ池湿地で栽培しているシイタケは、作業日や観察会に参加した会員のみなさんに持ち帰ってもらいました。



栽培シイタケ：出るときはこんなにたくさん

惣ヶ池湿地ではそれ以外にハナビラニカワタケが今シーズン沢山採れました。これまで湿地内のコナラの枯れ木に出ていましたが、食べることはありませんでした。

切り倒そうと思っていた2本のコナラの木に、このキノコが沢山出ました。これはシロキクラゲの一種で、乾燥すれば保存できるキノコです。



ハナビラニカワタケ

調理したものを湿地の作業日に持っていき、昼食時にみなさんに試食して貰いました。

持って行った9人分を抵抗なく試食した人は6人。残りは3人にしぶしぶ食べて貰いました。

食べてみたいという方は、惣ヶ池湿地で採れた干しシイタケとともに差し上げます。但し、数量限定です。筆者を含めて10名が健在ですので、安全なキノコです。

惣ヶ池湿地南西入口から市有地へ上がる道端にニガクリタケという毒キノコが出ました。信太山丘陵で見つけたのは初めてです。美味しそうに見えますが猛毒のキノコです。何年前か前に、このキノコが「〇〇市」という場所で売られていたというニュースを聞いたことがあり驚きでした。

食べられるキノコでもアルコールと一緒に食べると当たるといふものもあります。野生のキノコを食べる場合は、確信がいくまで口にしないことです。

## 信太山丘陵の冬鳥

冬鳥はシーズン半ばですが、カモ類が激減。カンムリカイツブリやヨシガモが短期に観察されていますが、猛禽類も殆ど姿を見せません。そんな中で惣ヶ池湿地ではルリビタキが♂♀共に姿を現し楽しませてくれています。



ルリビタキ♂

2月23日(日)の観察会は、トラスト協会、公園協議会との合同観察会です。